

発達見守り表 6ヵ月頃からのカラダの発達と遊びのベネフィット

6ヵ月頃～

8ヵ月頃～

12ヵ月頃～

18ヵ月頃～

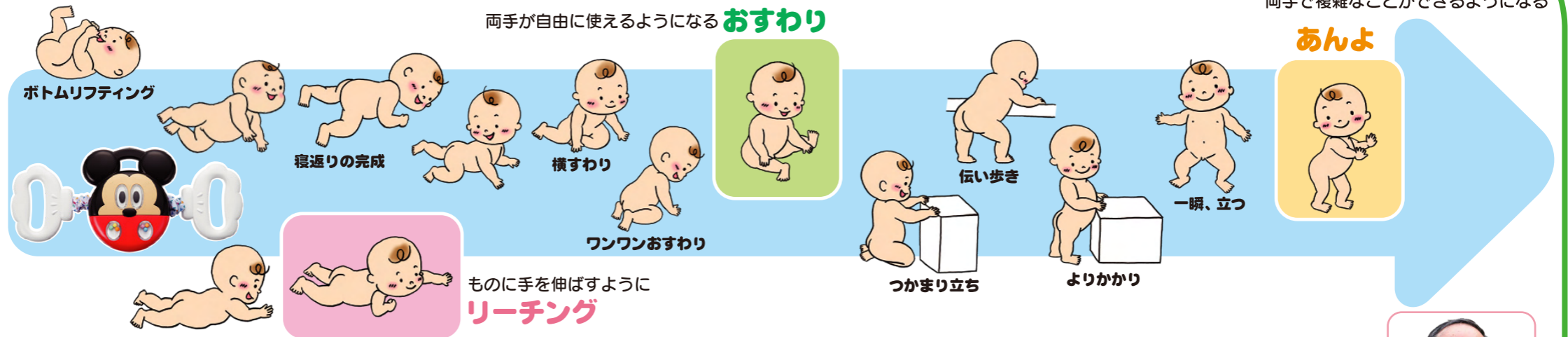
寝返りの頃

おすわりの頃

伝い歩きの頃

あんよの頃

カラダ姿勢の発達



※月齢ごとの赤ちゃんの成長には個人差があります。この表は目安としてご活用ください。

赤ちゃんはカラダが動くようになることで、ますます意欲が出てきます。それにより脳の回路が増え赤ちゃん自らの発達に挑んでいきます。最初に意欲そして好奇心、カラダ知育は「知的な教育の出発点」と言えるでしょう！



発達の
タイミング

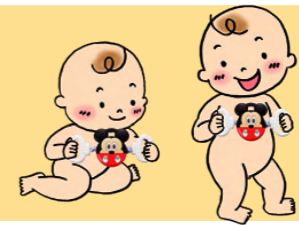
リーチングを
楽しむ頃



おすわりを
楽しむ頃



あんよを
楽しむ頃



商品の
遊びの
効果

リーチング(物に手を伸ばす行為)は周囲に興味を持つ時期です。このおもちゃを赤ちゃんの手が届きそうな位置に置いたり、目の前で振って音を出し、ラトルとして遊んでみましょう。最初は距離感が分からず、おもちゃをつかめなくても、次第につかめるようになっていきます。また、大人に向けて「自分はそれを取りたい」と伝える意思表示に手差しをするようになり、周りの人とコミュニケーションを取るきっかけにもなります。

おすわりで両手が自由に使えるようになった赤ちゃんは、次第につかまり立ちをしたり、寄りかかって立ったり、手足でカラダを支える力を養っていきます。また、ものを手に持ったまま遊べる時間が増えていきます。「自己」「他者」「物」の3者間の関係(三項関係)ができ、親子でおもちゃを引っ張ったり、やりもらい遊びができるようになっていきます。

あんよに慣れてくると、手の位置は高めで自分の足に興味のある方向へ行くことを楽しめます。また、両手の自由度がさらに増えていきます。カラダの複数の器官が同時に働き、支え合って1つの行為ができるようになることを協応運動と呼びますが、両手を使った遊びなどが難しかった赤ちゃんも、だんだんと両手を同時に使えるようになっていきます。両手でミッキーの手を引っ張って遊ぶうちに、二の腕から背中にかけての横ストレッチ運動を促し、腕肩がしっかりしていきます。

©保護者のもとで遊ばせてください。商品の使い方はパッケージ側面「遊び方」「遊びはじめの月齢目安」をご覧ください。